

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275100441		
法人名	社会医療法人 駿甲会		
事業所名	グループホーム実夢大覚寺 1階		
所在地	静岡県焼津市2丁目19-3		
自己評価作成日	令和7年8月25日	評価結果市町村受理日	令和7年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2019_022_kami=true&JigyosyoCd=2275100441-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和7年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の最大の強みは運営母体の病院が徒歩5分の距離にある、距離的安心感です。日々の健康管理はもとより、法人独自の救急救命士、救急車の運用を開始し万一の際でも24時間迅速に対応できる万全な医療バックアップ体制は「選ばれるポイント」として入居者家族様、地域のケアマネジャーからも高く評価されています。またコロナ禍のなか通院での感染が懸念されるため月2回の訪問診療に切り替え医療との連携が密に取れる環境や母体である病院には救急救命士も配置され24時間オンコールで病院に搬送できる体制も整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

例えば、運営推進会議では「今日、市役所の人に何かお話ししたい人はいますか?」と、利用者に声をかける姿に管理者の常からの誠実で真摯な姿勢が現われています。「利用者がお皿を持っていきたく立ち上がる、ふらふらして危ない」との意見に、「危ないから動かないほうがよいというのは職員の気持ち」「利用者はやりたい。それなら寄り添って、一緒に行きましょ」と声をかけたいのには「ここで皿を拭いてくれますか、と提案するのでもいいのではないか」などといった職員間の意見が活発なもの、もともとはフォロワー型リーダーの管理者の下支えあってのことで、日を追って職員が育っている、頼もしさがある事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度の初めの職員ミーティング時に今年度の目標や理念について話し合う機会を設けている	年度の初めには、理念に等しいと位置付けている「施設目標」を定め、玄関に掲示しています。更に職員は施設目標に基づいた「目標チャレンジカード」を個人毎に作成し、隔月の面談で振り返りをおこなっています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内の自治会に入り川掃除、公園のゴミ拾いなど地域の活動に参加している 中学生の体験学習も受け入れをしている	新たな取組として、中学生の職場体験を受け入れています。手探り状態で3日間の原案プログラムを検討し、事前に本人たちとの打ち合わせを経て精度を上げ、最終日には折り紙持参という動機づけに実っています	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の夏祭りや子供神輿など自治会の行事に参加し地域の方々の理解を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事故報告や利用状況などを報告し運営推進会議の委員に意見を求め改善の場を設けている	行政のほか、地域からは民生委員が複数名揃うこともあり、情報が適切に入っています。「今日、市役所の人がおみえになりますが、何かお話ししたい人はいますか？」と声をかけており、利用者も出席しています	町内会長と家族にも案内は欠かしていませんが、来所には実っていません。ボランティアの受入れ活性化もねらいとして、ボランティアつながりでのご縁拡大を期待します
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回運営推進会議の場で報告している	焼津市の地域包括ケア推進課の指導担当には書類関連で問い合わせることが多いものの、随時講座やイベントの情報も入っていて、何かにつけ事業所に向き合ってくださいと感ずる対応があり、感謝しています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年3回以上身体拘束に関しての施設内研修をおこなっている	一昨年の虐待防止の委員会設置の要請を受け、これまでの「身体拘束廃止委員会」の名称は指針の中で「身体拘束・虐待防止委員会」へと変更し、合体のうえ、隔月開催と回数を増やして実施しています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の表情や全身状態の観察を日々おこない職員間で情報を共有している、年1回倫理や虐待についても施設内研修をおこなっている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入居されていた方の家族に法務事務所を運営している方がおり、その方に成年後見制度についての資料を作成して頂き職員、家族が自由にみれるよう玄関に資料をおいている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な理解が得られるようわかりやすい言葉で説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者は普段から職員との会話の中で、家族には面会時や家族会時にお話を聞かせていただき意見を反映できるようミーティング等で話し合っている	面会を通じて少なくとも月1回は家族と話す機会が確保されていて、言ってもらいやすい関係ができています。現在も、「お墓参りに～」「外泊を～」との要望が挙がっていて、安全な外出となるよう検討中です	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングや年2回の職員面談で意見を反映している	勤務年数が長く、職員の定着率は良好です。大半の職員は改善活動に積極的で、排泄表・入浴表、バイタル表などの改良やAEDの設置が職員の提案によって進み、サービス品質の高まりに実っています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の人事考課制度を活用し各職員が向上心を持って働けるように努めている(昇給、昇格、リフレッシュ休暇) 年2回の面談を個々におこない今年度の目標、進捗状況を確認している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のテーマごとの合同会議には担当を決め参加している、年に1回、法人内の事例検討発表会にも参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1回法人の主催するテーマごとの講義や各施設の発表に参加している、また3ヶ月に1回の市内グループホーム連絡会に参加している		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の意向を伺い対応している、また施設サービス計画についても3ヶ月ごとにモニタリングをおこない評価している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の来所持に本人の様子を伝えたり、家族の要望を伺い対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の意向や家族の意見を踏まえグループホームだけではなく事業所も視野に入れ本人にとって何がベストなのか検討しており法人以外の事業所にも紹介をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々にやりたいことや本人の強みを生かし活躍できる場面が作れるように職員が支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所持には近況を伝えている、入居者の心身に著しい変化等があった場合には管理者より電話連絡、家族の意向や今後の方針について検討している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容院や墓参り外食などもおこなっている、外出時に自宅で入浴をしてくる方もいる	本人が愛用する化粧品やジュース、パズルなどを家族が届けてくださいます。また携帯電話を自在に使用する人がいるほか、手紙が届く人も2名ほどいて、外部とのやりとりが続くよう、職員も支援しています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士、席を同じにしたり日常生活の中でスタッフが気配りをしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の他施設へ移る場合は契約終了後も受け入れ先の調整など関係機関と連携し退所後のフォローをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	経過記録や日々の様子から本人の希望を拾い出し職員ミーティングや担当者会議を通して本人本位にサービスが提供されるように努めている	職員は、「これが嬉しかった」「こうしてほしかった」を把握したら「ケース記録」に記載しており、寄り添う気持ちが滲む記録を視認しました。管理者も「本人が発した言葉と対応を丁寧に残している」と評価しています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聞き取り相談員やケアマネジャーからの情報提供を受けている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の生活パターンを経過記録等で把握し職員間で共有している、また本人の持てる能力や意向に合わせて掃除や台所の仕事をおこなっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを実施し本人、家族の意見を反映し介護計画に生かしている	フェイスシート、ケアチェック表を基盤とし、3か月毎のモニタリング一覧表の記入を経て、半年に1回介護計画書を作成しており、更にはサービス担当者会議には本人と家族の出席があり、理想的な推進方法です	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送り等で情報は共有し必要時、早急に対応できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、外出、受診の付き添い自宅への外出、外泊の支援など柔軟に対応している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染拡大を受けて地域資源の活用ができなかったが学童保育の子供たちが施設へ花を届けたり夏休みの絵日記などを持ってきてくれるなど交流をはかっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者が受診時には付き添い受診の経緯や近況を報告、本人や家族の意向も代弁している	内科については、訪問診療医が全利用者を担当しています。医師が看護師と協力医療機関連携会議の記録をおこなう係を帯同して、月2回訪れるほか、別の看護師が週1回健康管理の為、配置されています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、看護師による回診、月に2回の往診があり助言を受けている、夜間は法人の医療機関に電話し看護師や医師からの指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供をおこない本人、家族、主治医を交えて話し合いの場を持っている、入院の経過、退院時期についても週1回の病床管理委員会に出席し病院関係者、主治医と情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては現在おこなっていません、重度化した場合や終末期については主治医や関係機関と連携し方針を検討している	「利用者の重度化した場合の対応に係る指針」を以って、看取りは基本おこなわないとの内容で家族と合意形成しています。一方希望があれば、力を尽くしたいとの思いではあり、母体病院も協力くださっています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し連絡や対応方法について周知徹底を図っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練 年1回の風水害の訓練を実施している	年2回実施を遵守しており、1回目は「地震想定で、消火訓練及び非常食を使った炊き出し」を10月に予定しています。消防署の立ち合いはないものの、水消火器を借りて消火を体験することも組み込んでいます	風水害の被害が昨今増えています。停電対策と職員の出勤方法を早めに整備することを期待します

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護と尊厳については年1回施設内研修をおこなっている	法人では接遇委員会が発足しており、事業所職員も1名加わっています。また職員は接遇のセルフチェックをつけていて、特に言葉遣いについては課題はあるものの日々向上していると管理者は自負しています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	業務の流れや職員の都合が優先されないようにスタッフ一人一人が心がけている 年賀状を書きたいという願いがある方には練習帳を用意し職員が付き添い字の練習をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の言動や様子で臨機応変に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の購入や美容院への外出の支援を職員がおこなっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で取れた野菜や大家さんからいただいた野菜の下ごしらえや食事の準備、片づけを職員と一緒にこなしている	利用者が調理に参加しやすくキッチンの高さには工夫があり、長年培った手わざは健在で、皮むきなどの手伝いに入る利用者もいます。ひな祭りのちらし寿司、敬老の日には紅白饅頭と赤飯と、行事食も盛んです	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態にあわせ量や食事形態を決めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力にあわせ対応している、義歯の方は毎日洗浄している 必要に応じて訪問歯科も利用している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し本人の排泄パターン、排泄量を把握しトイレで排泄できるよう働きかけている 便秘等についても月2回の往診時に、医師に伝え下剤の調整をしている	6名が日中も車いすで過ごしていますが、尿意を感じてトイレに向かう人が全体の7、8割程います。テープ式おむつが必要となった2名は、ベッド上での交換になっていて、3時間を目安に確認しています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレに座って排泄できるように支援をしている 排泄チェック表を活用し便秘の有無を確認している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中は曜日に関係なく入浴できるように支援をしている	湯は人毎に入れ替え、衛生を担保しています。週2回が目安なものの、本人の拒否には足浴への変更もあります。現在同性介助の希望はありません。浴後に保湿クリームを塗るといった個別対応もみられます	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員の都合ではなく本人のペースにあわせ就寝援助をおこなっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報はケース記録に綴じ確認できるようにしている、薬の変更、注意点については共有ノートに記載し職員全員が確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵や畑仕事など本人の嗜好や生活歴にあわせ支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コンビニエンスストアや行きつけの美容院に行っている 家族の協力のもと墓参りにも行っている	「今日は天気がいいから出かけよう」「今時間あるから行こう」が日常にあり、本人が飲ばなければやめています。通院の帰りに外食となる人もいるなど、散歩以外は家族の協力を仰いでいます	年1回花見の外出支援が恒例となっています。急に増やすのは難しいと思われるので、秋の芋ほりや紅葉狩りなど、あと1つ企画が増えることを期待します

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に職員や家族と出かけ支払いができる方は見守りをおこない自分で支払って頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば毎日の電話や手紙の支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、玄関などに利用者の書いた絵を飾っている	此処で働こうと思ったのは「尿臭便臭がしない」「きれいで清潔だったから」という職員がいるだけあって、大変清潔です。テーブル配置を工夫して、活動エリアがつけられていることも視認しました	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんどの居室は食堂から見えない造りになっており一人になれる空間がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で生活していたときのものを施設に持ち込み、なじみの環境の中、生活をして頂いている	カゴの中に並べられた化粧品からは利用者の愛着が伝わってきたほか、線つなぎが好きな人の居室にはテーブルの上にやりかけのが置かれ、自由に過ごしていることが覗えました	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を記したり居室の前に自分の書いた絵を貼りわかるようにしている お皿を洗ってもらうときは、皿を種類ごとにわけわかりやすくしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275100441		
法人名	社会医療法人 駿甲会		
事業所名	グループホーム実夢大覚寺 2階		
所在地	静岡県焼津市2丁目19-3		
自己評価作成日	令和7年8月16日	評価結果市町村受理日	令和7年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2019_022_kami=true&JigyosyoCd=2275100441-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和7年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の最大の強みは運営母体の病院が徒歩5分の距離にある、距離的安心感です。日々の健康管理はもとより、法人独自の救急救命士、救急車の運用を開始し万一の際でも24時間迅速に対応できる万全な医療バックアップ体制は「選ばれるポイント」として入居者家族様、地域のケアマネジャーからも高く評価されています。
また令和3年5月からはコロナ禍のなか通院での感染が懸念されるため月2回の訪問診療に切り替え医療との連携が密に取れる環境や母体である病院には救急救命士も配置され24時間オンコールで病院に搬送できる体制も整っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

例えば、運営推進会議では「今日、市役所の人に何かお話ししたい人はいますか?」と、利用者に声をかける姿に管理者の常からの誠実で真摯な姿勢が現われています。「利用者がお皿を持っていきたく立ち上がる、ふらふらして危ない」との意見に、「危ないから動かないほうがよいというのは職員の気持ち」「利用者はやりたい。それなら寄り添って、一緒に行きましょ」と声をかけたいのには「ここで皿を拭いてくれますか、と提案するのでもいいのではないか」などといった職員間の意見が活発なもの、もともとはフォローワー型リーダーの管理者の下支えあってのことで、日を追って職員が育っている、頼もしさがある事業所です

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度の初めのミーティング時に今年度の目標や理念について話し合う機会を設けている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の自治会に入り川掃除、公園のゴミ拾いなど地域の活動に参加している 中学生の体験学習も受け入れをしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りや子供神輿など自治会の行事に参加し地域の方々にも理解を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事故報告や利用状況などを報告し運営推進会議の委員に意見を求め改善の場を設けている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回運営推進会議の場で報告している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年3回以上身体拘束に関しての施設内研修をおこなっている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の表情や全身状態の観察を日々おこない職員間で情報を共有している、令和3年度は倫理や虐待についても施設内研修をおこなっている		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入居されていた方の家族に法務事務所を経営している方がおり、その方に成年後見制度についての資料を作成して頂き職員、家族が自由に見れるよう玄関に資料をおいている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な理解が得られるよう、わかりやすい言葉で説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者は普段から職員との会話の中で、家族には面会時にお話を聞かせていただき意見を反映できるようミーティング等で話し合っている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングや年2回の職員面談で意見を反映している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の人事考課制度を活用し職員が向上心を持って働けるように努めている(昇給、昇格、リフレッシュ休暇) 年2回の面談を個々におこない今年度の目標、進捗状況を確認している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のテーマごとの合同会議には担当を決め参加している、年に1回、法人内の事例検討発表会にも参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1回、法人の主催するテーマごとの講義や各施設の発表に参加している、また3ヶ月に1回の市内グループホーム連絡会に参加している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の意向を伺い対応している、また施設サービス計画についても3ヶ月ごとにモニタリングをおこない評価している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の来所時に様子を伝えたり家族の要望を伺い対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の意向や家族の意見を踏まえグループホームだけではなく他の事業所も視野に入れて本人にとって何がベストなのか検討しており法人以外の事業所にも紹介をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々にやりたいことや本人の強みを生かし活躍できる場面が作れるように職員が支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所持には近況を伝えている 入居者さんの心身に著しい変化等があった場合には管理者より電話連絡、家族の意向や今後の方針について検討している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容院や墓参りなどの外出支援をおこなっている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者さん同士席を同じにしたり日常生活の中でスタッフが気配りしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の他施設へ移る場合は契約終了後も受け入れ先の調整など関係機関と連携し退所後のフォローもしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	経過記録や日々の様子から本人の希望を拾い出し職員ミーティングや担当者会議を通して本人本位にサービスが提供されるように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聞き取り相談員やケアマネジャーからの情報提供を受けている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の生活パターンを経過記録等で把握し職員間で共有している、また本人の持てる能力や意向にあわせて掃除や台所の仕事をおこなっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを実施し本人家族の意見を反映し介護計画に生かしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送り等で情報は共有し必要時、早急に対応できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、外出、受診の付き添いなど柔軟に対応している		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染拡大を受けて地域資源の活用ができなかったが学童保育の子供たちが施設へ花を届けたり夏休みの絵日記などを持ってきてくれるなど交流をはかっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者が受診時には付き添い受診の経緯や近況を報告、本人や家族の意向も代弁している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、看護師による回診、月に2回の往診があり助言を受けている、夜間は法人の医療機関に電話し看護師や医師からの指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供をおこない本人、家族、主治医を交えて話し合いの場を持っている入院中の経過、退院時期についても週1回の病床管理委員会に出席し病院関係者、主治医と情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては現在おこなっていません、重度化した場合や終末期については主治医や関係機関と連携し方針を検討している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し連絡や対応方法について周知徹底を図っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練 年1回風水害の訓練を実施している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護や尊厳については院内研修をおこなっている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	業務の流れや職員の都合が優先されないようにスタッフ一人一人が心がけている 年賀状を書きたいという願いのある方には練習帳を用意し職員が付き添い時の練習をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の言動や様子で臨機応変に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の購入や美容院への外出の支援を職員がおこなっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で取れた野菜や大家さんからいただいた野菜の下ごしらえや食事の準備、片づけを職員と一緒にこなしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態にあわせ量や食事形態を決めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力にあわせ対応している、義歯の方は毎日洗浄している 必要に応じて訪問歯科も利用している		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し本人の排泄パターン、排泄量を把握しトイレで排泄できるよう働きかけている 便秘等についても月2回の往診時、医師に伝え下剤の調整をしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレに座って排泄できるように支援をしている 排泄チェック表を活用し便秘の有無を確認している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中は曜日に関係なく入浴できるように支援をしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員の都合ではなく本人のペースにあわせ就寝援助をおこなっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報はケース記録に綴じ確認できるようにしている、薬の変更、注意点については共有ノートに記載し職員全員が確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵や畑仕事など本人の嗜好や生活歴に合わせて支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コンビニエンスストアや行きつけの美容院に行っている 家族の協力のもと墓参りにも行っている		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に職員や家族と出かけ支払いができる方は見守りをおこない自分で支払って頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば毎日の電話や手紙の支援をおこなっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や玄関などに利用者の書いた絵を飾っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんどの居室は食堂から見えない造りになっており一人になれる空間がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で生活していたときのものを施設に持ち込み、なじみの環境の中で生活して頂いている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所記したり居室の前に自分の書いた絵を貼りわかるようにしている		